

ソフト・ハード両面で中小支援



製品開発に寄与する設備導入

ソフト面での支援だけでなく、県は進んだモノづくりに取り組みたい企業を対象に、設備面の支援も忘れていない。県産業支援技術研究所は、昨年から続けて2種の新設備導入し、支援体制を整えている。

昨年導入したのが、ス

トラシス社製の3次元

(3D) プリンター「E

den 250」1台だ。

液状の樹脂に紫外線を照

らして固化し、成形して

いく装置で、同年8月に稼働した。

処理実績は、昨年度が

39件、今年度は7月現在

で23件を数え、企業を中

心に利用を望む声は多

い。石井泉所長は、「この

どの強い光だけでなく、

室内照明でも効果を発揮

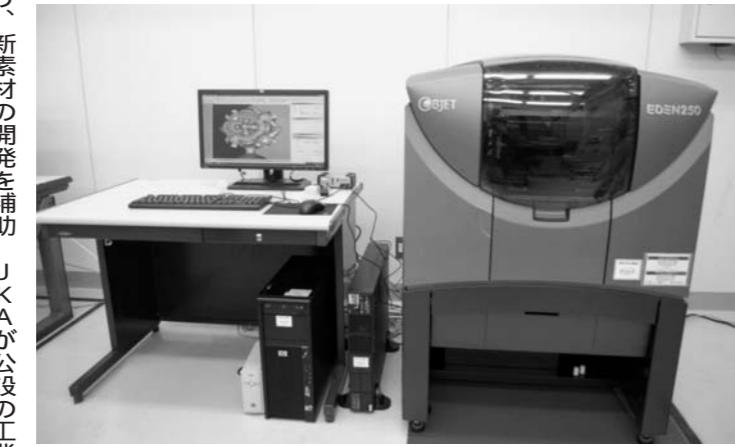
する光触媒の研究を進め

る。材料である酸化

チタンは、材料段階での

いる。

千葉県産業支援技術研究所天台所舎(千葉市稻毛区)



3Dプリンター「Eden 250」に、利用依頼が殺到している

県産業支援技術研究所の取り組み

「千葉ものづくり認定

制度

」

制度は、06年度から展開している。千葉県のモノづくり産業の目的。県内に本社や事業所で、製品開発を望む企業向けに、県産業支援技術研究所は新たな設備をそろえて支援体制を強化している。県経済年間に開催してきた。その展示会が1月、リニューアルして開催される。ソフト面の支援のほか、製品開発を望む企業向けに、県産業支援技術研究所は新たな設備をそろえて支援体制を強化している。県経済年に開催してきた。その展示会が1月、リニューアルして開催され

認定制度でお手伝い付き

11月、イベントを開催

11月、千葉県は、今年で3回目の「千葉ものづくり認定製品認定式」を開催する。企業関係者はも

う、多くの一般県民も来場する。

会は今年で3回目の「千葉ものづくり認定製品認定式」を開催する。企業関係者はも

う、多くの一般県民も来場する。